

令和4年度 益子町立益子西小学校 学校評価書

1 教育目標

- | |
|--------------------------------------------------------------|
| (1) よく考え 本気で学ぶ子ども
(2) 元気で たくましい子ども
(3) 思いやりがあり 助け合う子ども |
|--------------------------------------------------------------|

2 学校経営の方針

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 新しい時代に必要な資質・能力を身につけさせるという学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導と評価の一体化による「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に努め、「学ぶ喜び」を味わわせる。
(2) 児童の様子を児童・生徒指導、教育相談、特別支援教育の3つの視点から総合的に見取り、関係機関と連携しながら、一人一人の特性に適した支援を行う。
(3) 危機管理の観点から、感染症防止対策に力を入れるとともに、児童の危険回避能力の育成に取り組み、問題行動や事件・事故の予防に努める。
(4) 健康教育の充実を図り、地域・家庭と連携して心身共に健康な児童の育成を図る。
(5) 特別活動や総合的な学習の時間を中心にふるさと学習とキャリア教育を推進し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを支える人材の育成に努める。
(6) コミュニティスクールの導入に向けて、地域とともにある学校づくりの一層の推進を図る。 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

3 今年度の重点目標

(1) 確かな学びをはぐくむ	①学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の実施 ・ねらいの明確化による指導と評価の一体化 ・授業改善による「学ぶ喜び」のある授業 → 各教科(国・社・算・理・生・外)の学習が好きな児童 80% ②個々の特性に応じた適切な支援 ・T T、ユニバーサルデザイン、ICT機器を活用した授業の実施 → 先生の授業は分かりやすい 85% ③主体的な学習習慣の確立 ・家庭学習の時間の確保と学習内容の充実 → 宿題や自主学習への取組 80%
(2) 豊かな心を育む	①学校・家庭における読書活動の推進 ・学校司書との連携による読書指導 → 本を読むことが好きな児童 80% ②いじめ等問題行動の未然防止 ・道徳教育、児童・生徒指導の充実 → 学校生活が楽しい児童 90% ③自分の生き方を考えさせる指導の充実 ・ふるさと学習とキャリア教育の推進 → 将来の夢やなりたい自分がある児童 80%
(3) 健やかな体を育む	①健康的な生活習慣の確立 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の推奨 → 実行した児童 80% ②体力・運動能力の向上 ・体力向上プログラム活用による課題克服 → 新体力テストB以上の児童 40% ③安全・防災教育の充実 ・訓練を通じた危機回避能力の育成 → 安全・防犯・防災知識の定着 90%

4 評価表

評価の「A」は優れている、「B」は良い、「C」は改善の余地あり、「D」は要改善

項目	具体的評価指標	自己評価			学校関係者評価 学校評議員	達成状況 成果○と課題▲
		児童	保護者	教職員		
教育課程	①学習指導要領の実現を目指し、児童や学校の実態、保護者や地域の意見要望等を踏まえた創意ある教育課程を編成・実施した。			A	A	<p>※学校評議員の意見はゴシック体で記載。</p> <p>○感染症対策を十分に行いながら、行事や集会活動、授業参観など、少しずつ以前のような形に戻せるよう計画の段階から改善を行った。</p> <p>○登校できない児童に対し、タブレットを活用するなど、学びの確保に努めた。</p>
学習指導	①「主体的・対話的で深い学び」を実践し、学習意欲を向上させた。 各教科（国・社・算・理・生・外）の学習が好きな児童 80%	B		B	B	<p>○学校訪問があったため、いつも以上に指導と評価の一体化を意識しながら授業を行うことができた。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びのために芳賀の取組は非常に参考になった。DVDを見てどのような授業をしたいのかということ共有し授業改善が図られた。</p> <p>▲新型コロナウイルス感染症対応のため、「対話的な学び」が十分とはいかなかったが、距離をとりながら活動させている。</p> <p>▲教科によって特性があり、一律に好きにさせるのは難しいと思う。</p> <p>▲児童のモチベーション向上も合わせてお願いしたい。</p>
	②指導と評価を一体化した授業の展開により、「分かる授業」が実践できた （先生の授業は分かりやすい 85%）	A	A	A	A	<p>○児童とともに「めあて」の設定を行い、「振り返り」の時間を確保することが、授業内容をしっかりと定着させることへとつながっている。</p> <p>○どの授業も子供たちがいきいきとしている。</p>
	③主体的な学習習慣が確立できた。（家庭学習の時間の確保、家庭学習の内容の充実、児童の取り組み状況等） （宿題や自主学習への取組 80%）	A	B	B	B	<p>○6年生に関しては中学校進学を意識させ、週末の課題を工夫するなどして主体的な学習習慣の定着を図っている。</p> <p>○家庭学習強化週間だけでなく、普段の学習についてもしっかり指導しているクラスが多く、各クラスでのノートコンクールも効果的である。</p> <p>○学級活動の時間に、自主学習の仕方を改めて指導したところ、工夫が見られるようになった。</p> <p>▲自主学習の取組には児童によって差がある。概ね自主的に、または保護者の協力の下実施されている。</p> <p>▲自主学習を宿題にするとやってくる。しかし、宿題にしないと取り組む児童は少ない。本当の意味での自主学習の確立が難しい。</p> <p>▲毎日一定時間家庭学習に取り組ませる工夫が必要。</p>
	④読書活動の充実（学校司書との連携、図書室の積極的な利用）と家読の推奨を実施した。 （本を読むことが好きな児童 80%）	A	B	A	A	<p>○国語の授業で司書との連携をとって実施した。</p> <p>○図書室の本の貸し出しは週1のペースで行ってきた。</p> <p>○毎週、本を借りることで、図書室に行くことを楽しみにしている児童が増えた。朝の読書の時間も静かによく読んでいる。</p> <p>○家庭読書カードの取組など、学校と家庭が協力して読書を推進するための手立てが実行されている。コミュニケーションデーとの連携を図りながら、さらに読書を奨励していきたい。</p> <p>○月に1回の家庭読書の課題は、無理なく実施できるし、啓発にもなってよいと思う。</p> <p>○読書月間では、読書ビンゴのカードを見ながら、本を選ぶ児童の姿をたくさん見た。よい取組だった。</p> <p>○読書週間の様々なイベントにより、子どもたちは本に興味をもつことができた。</p> <p>○毎年、読書活動は様々な取組がされている。本のPRや帯紹介など工夫されており良い。</p> <p>▲学校ではしっかりと本を読んでいるので、家読の推奨をさらに進めていきたい。</p>

学習指導	⑤ H24 から始まった小学校英語教育特区（現 教育課程特例校）の効果について→1・2・3・4年が外国語活動を実施してきたことで外国語活動に対する興味関心、外国語の表現への慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が十分図られている。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 83%の児童が、外国語の学習が好きであると答えている。 ○ 外国語専科教員やALTを中心とした授業の改善により、児童は英語に慣れ親しみながら活動することができている。 ○ 他の教科に比べ、楽しみながらより積極的な態度で授業に参加する児童が多く見受けられた。
キャリア教育	① 地域素材を生かした体験活動を実施することで、キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実に努めた。 （将来の夢やなりたい自分がある児童80%）	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の将来に対する意識や、地域を大切に思う心を育てよう努めている。 ○ 総合的な学習の時間で、益子町を題材とした調べ学習に取り組み、調べたことのまとめ作業を行った。 ▲ キャリアパスポートの取組が始まって日が浅いので、活用方法の改善などを今後も進めていきたい。 ▲ 地域素材の活用が十分ではなかった。 ▲ 小学生時代に抱く夢や希望は人生において大きな意味をもつと思うので、しっかり夢をもたせて欲しい。 ▲ 図書に参考書があると良い。
児童指導	① 「学業指導の充実に向けて」（県教委）に基づいた、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を適切にしている。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間を守る、挨拶をしっかりとするなど基本的な生活習慣のほか、新型コロナウイルス感染症対応の手洗いうがい・消毒も徹底するよう声を掛けている。 ○ 「よいこのきまり」や「月別生活目標」を土台にして、学校全体で指導の統一が図られている。 ○ 目標の達成状況を、多角的・客観的に振り返る取組ができており、PDCAサイクルが確立されている。 ○ 出授業の時に、どのクラスでも同じような授業をすることができるのは、日々の担任の先生方のご指導の成果であると感じている。 ○ 挨拶が良い。 ▲ 挨拶や食事の姿勢など、生活習慣の向上を感じられたが、休み時間の室内での過ごし方に問題が見られた。
	② 教育相談や児童の観察を定期的に行い児童の小さな変化を見逃さず、問題行動の早期発見に努め、児童指導の充実が図られた。 （学校生活が楽しい児童90%）	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人にしっかりと時間をかけて、児童との信頼関係づくりや実態の把握がなされていると思う。 ○ 校務支援ソフトが導入されたことで、問題等の共通理解や対応が迅速に行えるようになった。組織として動くことができている対応も早いと感じる。 ○ 児童観察は意識して行い、問題行動の早期発見と対応に努めた。指導時には、児童に原因や理由を考えさせるほか、話し合うことで解決するように促した。 ○ 配慮を要する児童について、担任だけでなく他の先生方も気に掛け、声を掛けてくれることがとてもよい雰囲気である。 ▲ 教育相談や児童の観察を意識して行っているが、家庭や学童でのトラブルが原因のものもあり、全体把握は難しい。
	③ 組織的に児童指導に取り組み、関係機関と連携しながらチームで支援ができた。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童指導主任を中心に、チームとして対応している。 ○ 本校は、SCやSSWの積極的な活用、連携が進められている。特に心配な児童に対して、素早くSCとつなげることができている。
特別支援教育	① 全職員の共通理解の下に、校内支援体制を適切に整備し、特別支援教育についての理解を深め、適切な支援を行った。 ※ 個々の特性に応じた適切な支援、ユニバーサルデザインによる授業の実施、個別の指導計画、関係機関等との連携			A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担任だけでなく指導助手の先生方の協力があり、個々の特性に応じた支援を行えている。 ○ 共通理解の下、多くの先生方からあたたかい言葉掛けが行われていた。 ○ 個に応じた支援を進める中で、より有効な手立てについて話し合い、支援体制の強化に努めた。 ▲ 児童によっては精神的な波が大きい場面を見かける。その日の体調や気持ちに配慮しながら、より適切な支援ができるよう研修を行っていきたい。

保健管理	①児童の心身の健康的な生活習慣確立のために適切な指導管理を行った。 ※日常の健康観察、健康診断環境衛生検査等			A	A	○毎月の衛生検査の結果や強化週間の取組を生かして、日常的に生活習慣指導を行うことができています。 ▲朝トイレがまだ定着していない児童がいて、授業中や昼食後にトイレに行く児童が多い。
	②感染症に関する衛生管理マニュアルを踏まえ、健康管理と環境整備を実施し、感染症予防の徹底を図ることができた。			A	A	○養護教諭を中心に予防対策を実践し、感染症の拡大を最小限に食い止めることができています。 ○感染状況を見ながら対応を考え、その都度情報を流してもらえるので、動きやすい。 ▲マスクや消毒の感染対策、黙食などは徹底したが、休み時間に児童同士が密接になる場面が見られた。その都度声掛けや指導をしたが、浸透はしていない。 ▲検温表の保護者のサインが無いことが増え、児童や保護者、学校に慣れが広がってきているように感じる。
	③体力向上プログラムを活用し、個に応じた体力づくりの推奨に努めた。 (新体力テスト B 以上の児童 40%)			B	B	○新体力テストに向け、体力づくりを取り入れた学習を行った。 ○持久走記録会を実施することができ、とてもよかった。 ▲持久走記録会の練習に自主的に取り組む姿も見られたが、西小タイムの練習が少なかった。期間を決め運動タイムに変更し、持久走に取り組ませるとよい。
安全管理	①全職員の共通理解の下に、教職員及び児童生徒の安全対応能力の向上に努めた。 ※危機管理マニュアルの活用、安全点検、避難訓練、防犯教室、交通安全教室 (安全・防犯・防災知識の定着 90%)	A	A	A	A	○定期的に安全点検をするほか、学期初めや学期末に交通指導や通学路点検を行った。 ○訓練が実施されていて良い。
	②児童の登下校の安全確保に努めている。 ※スクールガードとの連携	A	A	A	A	○全体への指導のほか、1・3年下校の時は途中までついて行って下校の様子を見守った。 ○下校指導では、その日の状況を踏まえて安全に登下校できるように声を掛け指導した。 ▲通学路変更の希望に対しては、なかなか対応が難しい。 ▲スクールガードの方が、学校近くの歩道に落ちた大量の杉の落ち葉をほうきではいてくれている。枝つきの葉なので、児童だけではなく車にとっても危険である。道路側に斜めに傾いた木もあり、毎日見慣れた場所ではあるが危険な場所であると思われる。 ▲防犯灯や必要なものを自治会に伝えてほしい。
組織運営	①学校経営方針の具現化のために校務分掌や各主任の役割が適切に機能するように努めている。 ※全職員の参画意識、良好な人間関係と協力体制、情報管理等			A	A	○協力体制が素晴らしい。 ○職員の間関係、協力体制がとても良く働きやすい。
	②効率のよい業務を行うよう努めている。 (超過勤務時間 月 80 時間以下)			B	B	○業務内容について優先順位を意識しながら、効率のよい作業を心掛けた。 ▲コロナ禍で未実施だった研修や出張、行事が戻りつつあるが、新しい生活様式が定着してきた今こそ、必要性や実施方法について見直すチャンスだと思う。 ▲取捨選択をしながら業務にあたる必要がある。
研修	①学校課題解明のための授業研究を計画的に行い、授業改善に努めている。			B	A	○様々な教育教材を考え、分かりやすい授業を心掛けた。 ○課題解決のために一生懸命考えたり、自分のことを表現したりすることができる児童が多い。誰とでもグループやペア活動ができることも、先生方が学校課題に一生懸命取り組んでいるからではないかと思う。 ▲授業改善を心掛けているが、教材研究等が児童の学力向上につながるよう、さらに研究を深めていきたい。

情報提供	①学校に関する様々な情報が、保護者や地域住民に、十分に分かりやすい内容で、かつ適切な分量を提供している。 ※学校だよりや学年だより、学校ホームページの公開等	A	A	A	○学年便りで、定期的に情報提供を心掛けている。 ▲ホームページの更新は、学年ごとにばらつきがあった。
保護者・地域との連携	①保護者や地域への積極的な情報発信や諸活動を通して学校、保護者、地域の連携に取り組んでいる。 ※授業参観、運動会等の学校行事、地域の人材活用、PTAとの連携等	A	A	A	○コロナ禍で難しい部分はあるが、行事等の実施方法を工夫することで保護者や地域にしっかり学校の取組を発信できていると思う。 ○地域の人材活用については、研修を行ってきたので、今後は実践へとつなげていきたい。 ▲夏休みの「ワークショップ」の準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症対応のため中止となってしまった。 ▲自治会の活動PRを是非行いたい。
教育環境整備	①施設の維持・管理・補修が適切に行われ、教材・教具・図書を整備適切に行っている。		B	B	○校庭や正門付近の桜の木が、古くなっていたり折れていたりしている。町教委と連絡をとりながら安全管理を進めることができた。 ▲次年度からの図書貸出しのデジタル化に向けて、業者との作業調整を進めている。 ▲学級によって整理整頓のばらつきがある。物が多くなっている棚などが必要。

5 次年度へ向けて（学校評価を受けて）

- (1) 新しい時代に必要な資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めているところである。新型コロナウイルス感染症対策のため、授業の形態が制限される場面もあったが、授業の展開を工夫し「学ぶ喜び」を味わうことができるよう取り組んできた。
アンケート結果から、学習が楽しいと答える児童の割合が全体的に増えてきているが、高学年になるにつれ、その割合が減っている。学習内容が増える高学年の学習においても、「学ぶ喜び」を味わわせることができるよう授業の改善を図っていきたい。
- (2) 家庭学習の時間の確保や内容の充実など、主体的な学習習慣の確立に向け、発達段階に応じた取組を進めてきた。家庭学習強化週間の位置付けやノートコンクールの実施など、児童の学習に対する意識の向上に向けた取組によりアンケートの結果も向上している。しかし、児童の学習習慣の定着や保護者の協力の度合いによる個人差が目立ってきている。
今後は、自主学習と宿題とのバランスや具体的な自主学習の方法の紹介など、児童の主体的な学習に対する意識をより高めていきたい。
- (3) キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実に努めた。コロナ感染症対策を十分に行いながら体験活動も多く実施することができた。アンケートでは、9割の児童が「将来の夢や希望をもっている。」と答えている。
今後は、コロナ禍で実施できていなかった地域人材を生かした取組やキャリアパスポートの活用などを通して、児童が自己実現に向けより積極的な態度で取り組んでいけるようキャリア教育を進めていきたい。
- (4) 体育発表会や持久走記録会など、「体力向上」へとつながる行事を実施することができた。体力向上プログラム等を更に活用し、児童の体力向上を図るとともに、「できた喜び」が意欲の向上へと結び付けられるよう、教師の指導力向上を図っていきたい。
- (5) 「効率のよい業務」については、少しずつではあるが職員の意識改革が進んでいる。しかし、仕事量が減ったわけではなく更なる改善を図る必要がある。
具体的には、業務の精選や平均化である。コロナ禍で制限されていた業務が戻りつつある中で、必要な活動についての再考や実施時の工夫、校務分掌の見直しなどにより改善を図っていきたい。
- (6) 「施設の維持・管理・補修」については、校舎全体の老朽化もあり、意図的な見回りや点検を心掛けている。修繕が必要な箇所については、児童の安全を第一に考え、迅速な修繕を行ってきた。
今後は、職員による修繕が難しい場合も増えてくるものと思われる。関係機関と連携し対応していきたい。